

1 学校として目指す授業

ICT機器を進んで活用することで、児童が主体的に課題に取り組み、友達と協働して解決を図ろうとする授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語・算数ともに「思考力・判断力・表現力」は高い。 ・国語では、文章を書き直した際に気を付けるべきことに対する理解や話し合いで発言する際に適切な理由を考える力、算数ではプログラミングを応用した図形問題に課題がある。 ・理科では、観察などで得た結果を分析して自分の考えをもつことや実験器具の名称の理解に課題がある。 ・国語・算数、理科と、東京都・全国の平均正答率を概ね上回っているが、中位層が都の平均を下回っている。特に理科において標準偏差を見ると、正答率にばらつきが見られる。タブレット型パソコン等のICT機器を活用することで個別最適な学びを保障し、ボトムアップを図る必要がある。	・難しいと思った課題に対して粘り強く取り組む力が低い。また、国語科、理科の学習に対しての質問に対して肯定的に捉えている児童の割合が都の平均に比べて低い。 ・友達との話し合いを行う中で自己の考えを深めたり広めたりできていると考えている児童の割合が高い。反面、友達と意見を交換する際にICT機器を活用していると感じている児童の割合が低い。(12.5%) ・コンピューターの使い方について家で約束を守れていると回答した児童が56%ほどである。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

・「学校の学習で人に負けたくない」で肯定的に回答した児童の割合は46%で、競争心があまり高くない傾向がある。特に第6学年児童は、33.7%と全体の3分の1ほどである。
 ・第6学年児童では、「確実にできるように反復練習している」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が10.9%であった。算数科において、間違えたときに似た問題を解く児童の割合が低く、練習する大切さを実感できていない傾向がある。
 ・粘り強さ、集中力における自己評価は86.3%と89.6%で、高い傾向にある。
 ・国語科において、友達と意見が違っていたときに相手に確認したり、自分の考えを伝え、自分の考えを日常的に表現したりする児童の割合は5～6割ほどである。また、分からないことがあってもすぐに調べようとする態度が十分に育っていない。
 ・前時までの学習した内容と結び付けて考える時間が授業内にないと考えている児童が約2割いる。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

3 児童の学力・学習状況等の課題

・課題解決の際に他者の意見を尊重するよさや友達と協働するよさを十分に味わっている児童が多いため、自分と違う意見があることや協力して課題を解決するよさを認められる力をさらに伸ばしていく必要がある。その際にICT機器を用いて、発言や考えを動画などのデータで残しておく必要がある。
 ・発言をしたり、発表したり、文章を書いたりといったアウトプットする活動やICT機器を活用することを通して、読解力、語彙力、伝える力、資料活用能力などを高めていく。また、どこを根拠に答えているのかや結果から考察できることなどを視覚的に捉えられるように指導することも課題となる。
 ・タブレットなどのコンピューターを使う際にはルールを守って、適切に用いる態度を育てる必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

- 「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- 「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- 「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- 12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

ICT機器を活用して個や集団に応じた学びを工夫することで、確実な学力の定着を図る指導

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	ペアで互いに発表したり質問や感想を伝えたりする活動を意図的に設定する。				絵や図・式に表したり、ICT機器を用いて場面の様子を具体的にとらえたりすることで、立式の根拠などを友達と話し合える場を設定する。				具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするために、ICT機器を用いて「見付ける」・「比べる」・「試す」・「見通す」などの多様な学習活動を行うようにする。		遊びながら歌う活動や、音に合わせて体を動かす活動など、友達と関わりながら楽しんで表現できる活動を意図的に設定する。		ICT機器を活用して、技法などについて視覚的に分かりやすく示したり、互いの作品を鑑賞する活動を設定して、作品の面白さや楽しさを見付けさせたりして、児童が自分の表現に生かせるようにする。				様々な運動遊びに進んで取り組む中で、工夫や考えたことを他者に伝える活動を取り入れる。また、運動遊びを静止画や動画で撮り、自分や友達の動きのよさを認めたり、動きのレポートを増やす。					ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。また、教材文を理解したり、自己を振り返りやすくなるために、ペア、グループなどの話し合いを設定する。
中学年	小グループで発表したり、話し合ったりする活動を意図的に設定する。		ICT機器を活用し、学習活動に対する資料を児童にわかりやすく提示する。ペアやグループで話し合う活動を意図的に設定し、自分ができることを考えさせる。		立式の根拠や課題解決の方法などについて、ICT機器も活用しながら友達と考えを共有し、よりよい方法や答えを考える場を設定する。		自由試行から科学的事象の不思議に気づき、仮説や予想につなげられるように指導する。また、ICT機器を用いて資料映像を見せたり、実験の記録を撮ったりする。				友達の演奏を聞き合ったり、教え合ったりする活動を意図的に設定する。また録画や録音を通して自分たちの演奏を客観的に鑑賞し、演奏に生かす機会を設定する。		ICT機器を活用して、技法などについて視覚的に分かりやすく示したり、互いの作品を鑑賞する活動を設定して、作品の面白さや楽しさを見付けさせたりして、児童が自分の表現に生かせるようにする。				様々な運動に進んで取り組む中で自己の課題を発見し、他者と伝え合って課題を解決する活動を取り入れる。また、静止画や動画を用いて互いの考えを共有する場面を意図的に設ける。				ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。また、既存の価値観を揺さぶるような発問を工夫するとともに、考える時間を十分に確保する。	
高学年	小グループでICT機器を活用して情報交換したり、ねらいに沿って話し合ったりする活動を意図的に設定する。		ICT機器を用いて情報収集したり、学習課題に対する自分の考えを発表したり深めたりする。小グループで調べたことを共有、話し合う活動を意図的に設定し、自身の生活に置き換え考えさせる。		立式の根拠や課題解決の方法などについて、ICT機器も活用しながら友達と考えを共有し、よりよい方法や答えを考える場を設定する。		実験結果を分かりやすくまとめ、結果から考えられることを自分の言葉で表現できるように指導する。また、ICT機器を用いて資料映像を見せたり、実験の記録を撮ったりする。				演奏を聞き合い、良かった点や改善点を話し合う活動を取り入れ、自分の演奏に生かせるようにする。また録画や録音を通して自分たちの演奏を客観的に鑑賞できるようにする。		ICT機器を活用して、技法などについて視覚的に分かりやすく示したり、互いの作品を鑑賞する活動を設定して、作品の造形的なよさや美しさを見付けさせたりして、児童が自分の表現に生かせるようにする。		ペアやグループでの活動を取り入れ、自分の考えや実践の工夫などを伝え合う場を意図的に設定する。ミシンなどの道具の使い方や片付け方を動画で見られるようにする。		様々な運動に進んで取り組む中で、自己の課題を発見し、他者と伝え合って課題を解決する活動を取り入れる。動画による手本を見せたり、自己の考えを図式化したり、より具体的な方法で他者に考えを伝える場面を設定する。		ALTやICTを効果的に用いて表現に親しませ、ペアやグループの活動を多く設定する。また、ゲームや発表などを通して、自身の考えを広めたり深めたりすることができるとともに、考える時間を十分に確保する。		ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。また、課題がもてるように発問を精選し、個々の価値の深まりやよりよい自分の姿を考えられるようにする。	